



いよいよ夏の到来！熱中症対策をしっかりしながら、夏を楽しんでいきましょう。さて 238 号に引き続き臨床心理学者、佐々木正美先生の子育てコラムから「しつけ」について、お伝えしたいと思います。

Q.しつけは何歳から始めたらいいですか？

A しつけは①「他者を思いやる心を育てるため」

②「社会のルールをまもれるように」

③「自分で自分を律する力を養うため」ですね

社会性、共感性は生後6か月～2歳頃まで

自律性は3歳頃までに育つと言われています。

今回はそのうち②についてお伝えします。



ルールを守れる子は保護者に見守られてきた子

「社会のルールを守る気持ち」これは生後6ヶ月から2歳頃までに育つと言われています。赤ちゃんはハイハイやよちよち歩きを始めると、未知のものと出会うことがありますね。そんな時、赤ちゃんは必ず振り返り「やっていいの？」などの判断を求めるものです。その時親が、ちゃんと見てあげて「いいよ」「だめだよ」と教えることで、赤ちゃんは自分の行動を修正します。この体験が成長したときに社会のルールを守る原点になるのです。少年期になっても社会のルールを守れない子の多くは、赤ちゃん時代に「振り返った時に誰も見ていてくれなかった」という経験を積んできた子ばかりです。答えを求めたときに親はちっとも自分を見てくれなかった。にもかかわらず、親の都合で「これをしちゃダメ」「こうしなさい」と言われてきたのです。大事なことは子どもが求めるときに見てあげること。赤ちゃん期のしつけは、それに尽きると言っても過言ではありません。

（「育てにくい子」と感じたときに読む本 佐々木正美）

新聞やテレビに取り沙汰される少年事件に、児童精神科医として関わってこられた佐々木先生の言葉には説得力がありますね。（今月担当N）